

ふれあい健康まちづくりシンポジウムについて

産・学・官による地域連携事業

事業概要

市民一人ひとりの健康寿命の延伸のため、市民の生活習慣の改善と心身共に健康な生活を維持しながら、生きる力を獲得して支え合う地域づくりを目指していく。そして誰もが安心して暮らせるための保健・医療・福祉分野での連携により、市民が創り輝くやさしいまちづくりを推進することを目的とする。

藤岡で健康まちづくりシンポ 暮らしの安心考える

まちづくりについて語り合ったパネルディスカッション

地域の医療福祉について考える「ふれあい健康まちづくりシンポジウム」(ふれあい地域・大学連携会議)が17日、藤岡市のみかほみらい館で開かれた。羽井利明藤岡市長や群馬医療福祉大の鈴木利定学長、藤岡多野医師会の山崎恒彦会長ら6人がパネルディスカッションした。テーマは「優しさにみちた藤岡のまちづくり」。公益藤岡総合病院の鈴木忠院長は、医師や看護師の不足を課題として「地域が医師を育てる環境づくりが不可欠」と主張し、藤岡青年会議所の黒澤誠博理事長は「議所の黒沢誠博理事長は「子育て世代として、医療費が高校生まで無料になる」と助かる」と要請した。まちづくりについて、鈴木学長は「学生は地元藤岡に愛着を持ち、まちづくりに参加するようになる」と期待を込め、新井市長は市民が藤岡を愛する気持ちがまちづくりの基本と応じた。上毛新聞社の藤井浩論説委員長がコーディネーターを務め、オープニングで藤岡中央高校和太鼓部「ひびき」が迫力ある和太鼓を披露した。約900人が聴講した。



支え合い広げよう

藤岡市のみかほび館で17日に行われた藤岡市による地域連携事業「ふれあい健康まちづくりシンポジウム」(ふじおか地域・大学連携会議主催)は関係者や一般市民約900人が参加。群馬医療福祉大看護学部福山なおみ学部長による基調講演「ケアの心をみんなのところに」とパネル討論「優しさにみちた藤岡のまちづくり」が行われ、熱心に意見を交わした。

「優しさにみちた藤岡のまちづくり」

出席者
 新井 利明さん(藤岡市長)
 鈴木 利定さん(群馬医療福祉大学長)
 山崎 恒彦さん(藤岡多野医師会長)
 鈴木 忠さん(公立藤岡総合病院院長)
 黒澤 誠博さん(藤岡青年会議所理事長)
 福山なおみさん(群馬医療福祉大看護学部長)
 (司会)藤井浩・上毛新聞社副社長(委員)



新井 利明さん

東日本大震災から2年。健康で心豊かに支え合いの実感を安心して生活できること、のかけがえのない支えあいが感じている人が多いのではないかと、少子高齢化が進むなか、保健・医療・福祉の連携促進が重要な課題となっている。新井 市長は総合計画で一人に優しいふじおかを掲げている。この目標は「これに到達」ということではなく、健康な地域医療の充実のため、公立藤岡総合病

愛する気持ちが基本 相互の精神もち参画 幸せ求め討議会開催



鈴木 利定さん

院は欠かせない。鈴木忠 1951年、前身の多野病院が42床で開院した。当時は17床が結核のためのベッドだった。地域住民のニーズに応えながら発展を続け、現在は生活習慣病の患者が増え、埼玉県北部からの入院患者もいる。高齢化に伴い、救急搬送される患者は10年前より約1000人増え、年間3000人以上。救急医療が大きな柱だ。た、より高度な医療提供のため、慢

性期の患者は地域の診療所などに対応をお願いしている。看護スタッフの確保も課題だ。以上をどのように対応して就職している。救急の日(9月9日)に全戸配布される救急カードの作成もしている。また、時間外は診療が多い公立藤岡総合病院小児科の応援、年2回の市民公開講座、耳鼻科と眼科のへき地巡回診療などでも地域に貢献している。



黒澤 誠博さん

「鈴木学長はどんな思いで福祉人材の育成を志したのか。を根拠にして成り立つ。人として、してはいけないことはいくつあるか。開学の心である道徳により藤岡市民として優しいまちづくりをしていきたい。黒澤さんが子育てたいことは、世帯として市に要望したいこと。」



「まちづくり」をテーマに話し合ったシンポジウム



鈴木 忠さん

黒澤 私の子供は生まれ時、未だだったが、地元には大きな総合病院があり、安心感に繋がった。鈴木 地域医療支援病院として多くの紹介患者を受け付けている。限られた医療資源を有効に活用するには、医師と連携する必要がある。診療所と連携する必要がある。診察をめぐって、かかりつけ医をめぐって、かかりつけ医が不足している。地域での支え合いをより高めるために何が必要か。



山崎 恒彦さん

い、仮に他の診療科を頼る必要が適切に助言を得られるので、かかりつけ医をめぐって、かかりつけ医をめぐって、かかりつけ医が不足している。地域での支え合いをより高めるために何が必要か。福山 第二既存の高齢者グループをもっと活用すること、学生らが参加し、世を超えた集りにしていけるように、第二に公民

基調講演 「ケアの心をみんなのところに」

福山なおみさん



群馬医療福祉大は2010年、藤岡市に看護学部を開設した。今年春、4年生を卒業するまで、看護学部を設けた趣旨は少子高齢化社会の健康化の構築に貢献すること。「健康」について地域の生涯学習の

垣根ないつながりを

ボランテア活動を通じて人格形成、積極性や協調性を磨く環境美化活動が大学の特色だ。建学の精神は人を元気づけたい。「ケア」に思いを込め、ケアの心をみんなのところに。自分自身も力を発揮し、地域に貢献すること。個人、家庭、企業、行政、大学、病院、NPOなどが協力して支えあうことが重要。誰もが安心して暮らせるまちを実現するには、ケアする人とされる人が垣根のない真実心で温かくながっていくことが何より大切だ。

「ふじおか地域大連携会議」は協働のまちづくりを推進して、市がさらに市民福祉の向上を目指すための組織。群馬医療福祉大看護学部と市民団体との共同事業を主目的として、2011年2月に設立された。会長は金井秀樹副市長。

昨年とは同様の学生をひき、対象には市民一人ひとりを健康寿命を伸ばすため、心身ともに支えあうことを目指す。維持し続けることを目指す。シンポジウム

医療充実へ地域連携 鈴木忠 かかりつけ医活用を 山崎